

## 第 33 回奈良市文化振興計画推進委員会 会議録

開催日時	令和 2 年 7 月 31 日（金）午前 10 時から午前まで	
開催場所	奈良市保健所・教育総合センター	
議題	1 開会 2 会長挨拶 3 報告 4 議事 (1) 奈良市文化振興補助金交付審査部会 報告について (2) 令和元年度奈良市文化振興計画推進に伴う事業評価・事業視察について (3) 次期奈良市文化振興計画について	
出席者	委員	中川会長、萩原副会長、上田委員、小野委員、倉橋委員、谷口委員、春田委員、松下委員、山下恭委員、山本委員 【計 10 人出席】
	事務局	中川市民部次長、池田文化振興課長、川井課長補佐、小谷係長、荒益係長、栗原（以上文化振興課）
	その他	
開催形態	公開（傍聴人 0 人）	
決定事項	●今回の会議録の署名は、中川会長と倉橋委員が行う。	
担当課	市民部文化振興課	

### 議事の内容

- 1 開会
- 2 会長挨拶、署名委員の確認（中川会長、倉橋委員）
- 3 報告  
 新型コロナウイルス感染症への文化振興における対応状況について事務局から説明を行った
  - ・ 1 月 28 日に奈良県で初めて感染者を確認。同日、市対策本部設置。
  - ・ 2 月 20 日、市主催事業の中止。また貸館事業の実施自粛を促す。
  - ・ 4 月 7 日、大阪府等に緊急事態宣言発布。4 月 10 日より市文化施設休館。4 月 16 日、全国に緊急事態宣言拡大。4 月 22 日、奈良市役所窓口業務の停止等。
  - ・ 5 月 25 日、緊急事態宣言解除。6 月 1 日から市文化施設休館解除、市役所窓口業務も再開。
  - ・ 7 月 10 日、奈良市内で 5 月 27 日以来の感染者を確認。7 月 23 日、市ガイドラインにおけるフェーズをⅡへ引き上げる。7 月 28 日現在、市内感染者は 53 例、県内は 215 例。
- 4 議事  
 (1) 奈良市文化振興補助金交付審査部会 報告について  
 (事務局より説明)  
 令和 2 年度に交付する「奈良市文化振興補助金」について、当委員会内に「補助金交付部会」を設置、昨年 8/27、11/26、12/17 の 3 日間で審査した。

補助金要望額について「市民文化活動支援事業」上限 50 万円設定分、総額 415 万 4 千円で 13 件、うち新規が 3 件。「都市文化推進支援事業 広域参加型」上限 300 万円設定分、総額 879 万 9500 円で 5 件、うち新規が 1 件。「都市文化推進支援事業 国際発信型」上限 1000 万円設定分、総額 1000 万円で 1 件の応募があった。

審査の結果「市民文化活動支援事業」は交付予定額の総額 284 万円、13 件全て交付候補事業として決定。「広域参加型」では総額 665 万 7 千円、5 件全て交付候補事業として決定。「国際発信型」は総額 1000 万円、1 件を交付事業として決定。詳細については別紙「文化振興補助金の審査部会の審査結果と文化振興補助金（1870 万円）の内訳」の“予算要求額の欄”の通り。

この結果をもって最終の予算要求を行ったが、査定が入り前回並みの予算となった。よって審査部会の結果額通り交付できず、当課において削減した額を交付することとした。先ほどの表“予算計上額の欄”の通り。なお、表中黄色はコロナによって補助金辞退をされている事業。

(委員より質疑・意見)

- ・ コロナで中止になった場合のお金はプールされるのか、どうなるのか。  
(事務局) 年度予算なのでプールはされない。市としては辞退された分は不用額となる。
- ・ 予算は一旦戻され、来年度コロナがどうなるか分からないが一応これからの予定として、延期になった分はまた同じことをやってくださいということになるのか。  
(事務局) 来年度は改めて募集をかけるので、今年中止された団体がそのままスライドする訳ではなくて、仮に同じ規模の事業ををするとしても、もう一回応募いただき、また審査にかけるということになる。
- ・ まるまる考えていた事業ができなくても、オンラインを使うとかアナログな方法とか、活動を途切れしない形で実施していくにあたって奈良市として支援をしていく可能性はあるのか。この補助金は使えないがコロナでこうなってしまった状況に対しては何か支援するのか。  
(事務局) 補助金だけのことで言えば、辞退されているところ以外で実施予定のところは、オンラインなどコロナの影響なので実績を見た上での判断となる。やる予定で進めていて中止せざるを得なくなった団体でも、辞退されているわけではないので当然準備に要した経費など対象経費にあたるのであれば今回は認めていこうと思っている。補助金を受けていない団体の支援については、市の方でも今も 7 月臨時会議をやっているが、調整等しながら何かやっていけないかと模索している。
- ・ 文化振興補助金で、今ある予算を集めて基金的なものでコロナ禍における文化支援に替えることは出来ないか。議会にかけないといけないし、相当難しいとは思いますが、9 月以降また事態が変わるかもしれないし、今年はコロナで例外的に基金という形にして、少額でもいいので、活動している人たちに支援出来ないか。
- ・ 大阪府市のアーツ・カウンシルはもうその事業を進めている。予算をもらって、困っている芸術家への支援事業が開始されている。奈良県の雄である奈良市はその位のことを考えてもいいのではないか。コロナの時代だからと何もしないでは恥をかく。今だからこそやりたいことがあると、予算があれば流用させてくれと協議する力を持って欲しい。
- ・ 国から出ているコロナ対策事業の活用でも考えた方がよい。

## (2) 令和元年度奈良市文化振興計画推進に伴う事業評価・事業視察について

(事務局より説明)

本委員会において、市が実施する文化事業の、主に文化施設が主催するものを中心に評価を行っている。H30

年度事業からは、委員の皆さまには視察および実際に事業参加の上、助言をいただいている。

令和元年度の文化施設の事業としては 235 件、H30 年度は 241 件だったので 6 件ほど少なくなっている。参加者数は H30 年度 197,378 人から R 元年度 177,003 人。

事業評価の対象は、施設と協議し、各施設から 3 事業を対象としている。事業主体が自己評価として評価シートを作成し、文化振興課において奈良市評価としてコメントを入れた。視察事業についてはご意見の一部も入れている。視察いただいた事業については次のとおり。

① なら 100 ふれあいコンサート 魅惑の低音～チューバの響き～（バリアフリーコンサート）

この事業は、障がいの有無やコンサートに行くことにハードルがある方も気軽に参加できることが主旨のコンサート。出演者の若手音楽家は、ウーベルチュールコンサートで賞を取られた方。奈良市での活動の幅を広げる企画でもある。

なら 100 年会館小ホールは段差がなくフラットで車いすの方でもエレベーターからすぐ入れる動線となっているが車いすの方の参加はなかった。

来場者の漸減傾向については、施設の方でも開催日程、出演者などに工夫が必要かなどを考えている。

参加者は減っているが、こういった事業を止めてしまうと奈良市としてこのような（主旨の企画事業の）場面がなくなる。まずは施設と協議して進めていきたいと考えている。

② 映像作家 林勇氣展「ANIMATION」

市美術館は市役所横のミ・ナラーという商業施設に入っている。

展覧会は現代アート展。プロジェクターで展示室内に映像作品を写す。作品の一つに子どもたちが書いた絵をアニメーションにするワークショップを開催、ワークショップの成果は作家の作品の一部として紹介された。

周辺施設の状況が変わり、それまで美術館を利用されていた方には鑑賞環境が違っており、そういった中で館の事業展開が課題となっている。

③ 奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良 2019-2020」北澤潤「You are Me」

「古都祝奈良 2019-2020」は 2016 年の東アジア文化都市開催の翌年度よりスタート、継続して現代アートの企画を行っている。

もちいどの商店街等で行ったが、商業施設等との連携について不十分という意見があった。文化芸術分野以外の所と連携していかなければならないのは文化芸術基本法でも謳われているところだが、うまくいっていないところがある。

また、行政の企画は予算の関係で単年度企画になるので、未来のビジョンまで見通した企画になれていないところがある。

視察いただいた事業以外も含めた昨年度事業の全体としての傾向は「参加者数・参加率の達成度」が全体に低いこと。市主催事業、貸館を含めた施設利用者もここ数年減少傾向にある。今年の 3 月はコロナの影響もあるが、数年単位で見ても減少傾向にあることが課題。出演者が毎回同じ定番企画など、飽きられているのではないかとの意見も施設などから聞いている。リピーターの多い定番事業はそれで成り立つメリットもあるが、リピーターが離れていけば自然と参加者が減る側面もある。企画の固定化は悪いことではないが、参加者が減っているのは市民のニーズに対応できていないとも言える。新たな層へ届く施策を検討すべきと考える。施設

利用者数・事業参加者数というのは大きな数字なのでこれを増やせばいいというわけではないが、市の施策の成果として明らかになっている部分なのでお示しした。

(委員より質疑・意見)

- ・ 沢山の施設があるが、何をしている施設かという打ち出し、明確な顔、ここに行ったらこれが見られるといったものがあるとよい。写真美術館や旧居は入江先生という文化資源で施設にあったものを充実させている。貸館と自主事業があるが、貸館で色んな人に使っていただいて収益を上げる必要があるが、貸館ではない部分でどうやってホールの特徴を出していくか。
- ・ もう一つは、ホールごとにディレクターやプロデューサーを、ホールがマンネリ化しない活性化するソフト提案・アドバイスができる人が必要。運営の中身に反映できるようなシステムがあると、もう少し施設の顔が見えて来ると思う。100年会館の共催事業は殆ど有名な方達で名前だけでチケットが売れる。それ以外がホールの顔となるが、そこの打ち出し方が弱いと思う。ならまちセンターも使う時は業者に入ってもらうが、もう少しこんなこともできるよという専門的なアドバイスができる方など、常駐でなくてもいいので人材の充実を検討されてもいいのではないかと。
- ・ 事業評価シートのところでもこの事業は直営なのか指定管理にゆだねているのか明記して欲しい。指定管理を受任している団体が今後の奈良の文化条例、文化基本計画を受けて、この事業のこの計画のこの部分を我々は担当しているという、アイデンティティを相互にはっきりさせていく方向が求められる。

### (3) 次期奈良市文化振興計画について

(会長から)

- ・ 事務局から次期奈良市文化振興計画についてご説明いただいた後に各委員からご発言いただくが、頭に入れておいていただきたいのは、まず現状はどうだということと、課題を克服するために対応する施策はこれではないかということを整理されることが第一点。二点目は評価していく為の指標が今までなかったが、ベンチマークを入れて成績評価をすべきではないかと。行政側に問題があるのかもしれない、施設に問題があるのかもしれない、プログラムに問題があるのかもしれない、システムに問題があるのかもしれない、いずれチェックできるように指標を入れていこうと。次に今までは秩序があつてないかのごとくの施設と計画との関係であつたが、これを計画上どのように位置づけるかを考えて欲しいというご提起が事務局の方から事前に来ている。

(事務局より説明)

次期計画について、内容の検討については、当委員会にていただいた意見を基として、配布の参考資料1「第1次計画の進捗状況」(現在作成中)、2文化施設職員のアンケート(コロナで利用者アンケートが出来なかった)、3文化庁「文化に関する世論調査」、4文化施設利用状況、などを踏まえて検討している。

現在の計画はH21年度策定、26年度に一度策定を加え、今年度R3年3月に期間終了。これを第1次として名称を「第2次奈良市文化振興計画」として2021年度(R3年度)から2030年度(R12年度)の10年間を計画期間とし、5年ごとに見直し改訂を行う。これは第5次奈良市総合計画の期間等に合わせている。

#### 次期計画の体系について

条例の基本理念と第1次計画で定めた基本方針は前提の「理念」として踏まえ、その下に「市民文化振興」

「都市文化振興」を政策レベルでまとめ、それぞれに課題に対応した「施策」を設定し、施策に繋がる事業を展開する形。理念>政策>施策>事業 という階層に整理する。他分野と重なる事業は、他の行政計画との整合性も図りながら実施する。

### 構成案について

「第1章 計画策定にあたって」では、第2次計画の趣旨や位置づけ、計画期間等。「第2章 基本理念と基本方針」は、文化振興条例の基本理念と第1次で定めた基本方針について第2次計画の前提となる考え方をまとめる。「第3章 現状と課題」は、市の文化を取り巻く現状や、第1次計画の進捗状況、本市の文化振興が抱える主要課題を明らかにする。「第4章 推進施策」は、「市民文化振興」「都市文化振興」2つの政策目標のなか、第3章で明らかにした主要課題を解決するための「施策」を説明、評価指標等を明らかにする。「第5章 計画の推進体制」は、計画を本委員会において進捗管理することに触れ、最後に条例等を資料編として付ける。計画の肝は第3、4章。「主要な課題」を何とするか、課題解決の為に「どのような施策」を設定するかの部分。

### 「主要な課題」と「推進施策」について

「主要な課題」を明らかにして対応する「施策」をどうするかを計画で明確化、文化施設も含めた市がそれらを踏まえた事業を展開していくという形を考えている。

[資料3-1について説明]

以上の5つの課題と施策をまとめた表が、資料3-2。各施策においてどういった指標が考えられるか例をまとめている。現在の計画には指標がないが、第2次計画では事業目的を強く意識するため指標を設定すべきと考えている。第2次計画策定後は、この指標について目標値を達成できるような事業を展開することとし、毎年指標に関連する事業や取り組みを中心に、本委員会でも評価いただければと考える。

指標について、他自治体で文化に関する意識調査を実施した上で結果を評価指標とするものもあるが、本市はどういった取り組みができたかのアウトプット（事業成果）を指標に設定したい。なお、5年後に見直し改訂を行うため、5年後の目標値を考えている。

資料3-3は、実際に冊子にした場合の骨子案だが、19ページに「文化施設の現状と今後の方向性」として文化施設のそれぞれの主たる目的が「市民文化」「都市文化」のどちらにあるか整理してそれぞれのミッションを文章化。なら100年会館とならまちセンターはどちらにも大きな役割があると考えて両方に掲載。

作業スケジュールについては、これまでの資料や骨子案についてのご意見を反映したものを次回会議にて提示、さらにいただいたご意見を反映したものを「素案」としてパブリックコメントを行い、市民の皆さまからご意見をいただいた上で最終案にしたい。

(会長から補足)

- ・ 市民文化と都市文化は論理が違うことについて簡単に説明する。市民文化政策というのは0才から100才まで、所得の多少に関わらず、地理的偏差を克服して、公平・平等にということ。弱い者には手厚く、豊かなものからはコストをいただく、という思想に立つ。都市文化は奈良ならではのもの、奈良が目指すものを選択的に選びそこに大同団結して、観光振興や訪問客を増やす、奈良の富を増やすために、アートや芸術を集中投下する戦略のこと。片一方は公平平等だが、片一方は選択的・集中的・戦略的。よって都

市文化政策をやる時に不公平などと言うのは止めてということ。都市の文化政策は一定の政治力・コンセンサスを必要とする。

(委員から質疑・意見)

- 資料 3-1 「(仮称) 第 2 次奈良市文化振興計画について」の基本理念のところ誤字あり。「文化活動の内容に介入し、又は鑑賞することなく、それを尊重すること」の“鑑賞”は“干渉”。また、資料 3-1 の 10 頁、インパクト(課題が解決した状態)の、「(13) 人権の尊重につながる文化活動の推進に関すること」のところ、これは都市文化なのか、市民文化ではないのか。

(事務局) 市民文化に入れる。

- 絵に描いた餅にならないよういかに進めるかというところを工夫していただきたい。
- 参考として未来ビジョン総合計画の概要について、この計画自体が第 5 次総合計画未来ビジョンに則って進められるということなので、その大枠を把握しておきたい。総合計画と連動するように措置は打っているか。

(事務局) 第 5 次総合計画の案においては、市民文化と都市文化の振興として両方を掲げているので整合性は取れていると考える。

- 「(文化庁) アンケート」を見ていて「関心がない」というのが高いのは大問題。文化に触れる機会が少ないとかコミュニティが少ないなど、全ての問題に「関心がない」が関係している。個人のプライベートな部分でもあるので難しいとは思いますが、どういう風に関心を掻き立てていくのかがなければ根本解決にならないのではないか。そこの課題設定をまた考えてもらえればと思う。
- 数値目標を掲げるのは大事。今までは理念があって数値がなかったので大進化だが、この施策をやれば本当にこの数値が達成できるのかが乖離しているイメージがある。今後事業を増やしていく中で埋めていくのだと思うが、この施策をやってこの事業をやってこの数値を達成するという意識を持って事業の 1 つ 1 つを作っていくって欲しい。
- 市民文化振興の文化を楽しむ仲間がいないとのところで、NPO、文化団体との協働を上げているが、協働ありきではなく、そもそも入口となるようなコミュニティ形成の方が重要かと思う。
- 高齢者の参加が大事ではないか。また、地域文化資源の保護・継承とあるが、利活用というか、ストックを活かして新しい価値を創造していくかといった視点が必要ではないか。
- 第 5 次総合計画に市民文化と都市文化を振興していくという言葉は入っていたか。

(事務局) 第二章の未来につなげる奈良の部分に市民文化振興、都市文化振興という言葉ではないが“奈良市の文化資源を引き継いだ上で、市民一人ひとりが主役となり新たな文化を育んでいく”ということを明確にしている。市民文化、都市文化という言葉は、後の各章の部分に入っていく。

- 市民文化振興のところ、市民が触れる文化とやる文化の混在がある。(資料 3-3) 骨子案 13 頁「3.多様化する市民の文化的ニーズへの対応が求められている」というところ、現状の分析は全て触れる文化。創造する文化に対してやる文化。市民文化振興については、観る文化、聞く文化、触れる文化から携わる文化、やる文化、その発展の方向性をどこかに担保しておかなければいけない。やる文化につなぐ視点を持っておきたい。
- 市民文化と都市文化を分けることによって、その間、市民文化が盛んになることによって都市文化のレベルも上がる。それをどこに書くか。課題を分けてしまうとそこが書けない。その循環図みたいなものを、ちゃんと両輪になって奈良全体の文化振興が進んで行くというイメージがある。施設の評価のところ、都市文化の中核である施設、市民文化の振興にもつぱら携わる施設、とすれば施設の職員もやることがはっ

きりすると思う。

- ・ 文化という言葉の定義はすごく広い。奈良の文化振興計画、未来ビジョンも含めて、奈良市では文化というものをこういう風に捉えてこういう計画を立てたという大前提が分かりにくい。文化を高級趣味と捉える人もいるので。
- ・ 時代のことで言うと、コロナで出会えない、集えない、声を掛け合うことも憚られるなかで、文化芸術の果たせることは沢山ある。関心のない人には関係ないことに思えるかもしれないが、そうではないことを強く打ち出していきたい。この計画の中に人との関わりや繋がり、表現していくことで社会やコミュニティが動いていくということを表せていければと思う。

(会長) 骨子案の8~10頁、第3章現状と課題の(1)奈良市を取り巻く現状の「昨今の文化行政の流れ」の後に世界的なコロナの感染状況で従来の文化行政が大転換を迎えていると記す。施策として期待されるのは、15番の情報通信技術の活用促進に関係する。どの文化施設も自らWEBで発信する能力を持たなくてはならない時代になった。双方向性のコミュニケーション能力を持った施設に発展していくことが望まれると書き込まなければならないかもしれない。

- ・ コロナ禍においては、劇場音楽堂における一般大衆向けのポップスなどの公演も収益を上げるのは難しい。1500人ホールでも500人でやらなければならないと赤字になる。それでも観たい人のために興行をおこすとなれば助成金を出さなければならない問題がある。それから市内に住むアーティストが困窮する可能性がある。そういうアーティストを救済してなおかつ学校と繋いでいくなどのアーティスト派遣型事業を起こさなければならないかもしれない。
- ・ 関心がないというのは機会の貧困ということ。時間がない人は時間的貧困。病気になるのは健康上の貧困。貧困は経済的貧困だけではない。この時代においては困っているとか、貧困に遭遇している人たちこそ機会供給、重点的に救うような施策の打ち直しをしないとイケない。一般的に有料で何万人来て大儲けだというのは、その儲けたお金を巡回事業に投資するとか、障がい者のための芸術展示に投資するなどの大転換を図らなければならない。今までのように赤字を無くす、入場者数を増やすというものからの大転換が必要。高齢者の文化への参加は当然配慮せねばならない。社会的少数者にこそ、重点的に優先的に事業の享受ができるように変わらなければならない。
- ・ 地元で活動している者としては、サークル活動などされている方々の多くは公民館などを使っている。そこでは高齢者が多い。若い方は仕事で昼間は来られない。子育てをしながら奈良町でアートの活動をしている方が言っていたが、文化を楽しむ仲間が少ないというのは作る側としては、アーティストたちが気軽にフラッと立ち寄れる場所が全くないと。場所があれば、そこに行けばコーヒー飲みながらアイデアが出るといった、何となく寄れるところがない。京都にはある。市の施設が適切か分からないが、そういったフリースペースがあれば大変助かる。市民の方々も交流ができ、機会を得ることにもなるし、友達もできるとホールを借りようかとなってくる。気軽に集まれるオープンな場所があればいいなと切実に思う。
- ・ 指標の具体的な項目よりも終わった後に評価することが大事だが、事業計画を立てる時に、紐づけしつつ、目的が現場に徹底される仕組みが必要と思う。後付けで記す評価シートにならないように。現場での実施の仕方も計画の中にルール化が必要ではないか。年度ごとに文化振興計画を現場で活かすためのワークショップをするなど、指定管理者や施設運営者に対して徹底して欲しい。それをどこかに混ぜて欲しい。
- ・ 課題は現状すでにある問題なので、体制が変わらないと現場に苦勞を強いるだけではないか。場所であったりコミュニティであったり、実務をサポートできる仕組みが両輪として必要だと思う。専門性が高いのでハードルが上がるかもしれないが。(資料3-2、課題2)「文化を楽しむ仲間が少ない・コミュニティが少ない」という課題は、その事業自体にファンコミュニティがあるかなどの指標があってもいいのではな

いか。

- ・ 評価指標はこちらが勝手に決めて押し付けるものではない。原則的に担当部局から提案を求める。何で評価して欲しいかの提案を求める。広域型事業の評価シートと収益型事業の評価シートは全く違うはず。現局の主体性で一度提案してくださいということ。総合計画もそのはず。総合計画も現局とすり合わせて評価指標を決めているはず。
- ・ 施設の活動について、PDCAを検討していかなければならないと思う。合わせてそれが機能しているかもチェックしなくてはならない。文化システムというものに、行政として厳しく取り組んでいかれるべきと思う。
- ・ 「インターネットによる文化情報収集・発信」のところ、いきいきネットというものが過去にあったが、あまり活かされていなかったように思う。情報発信の方法を変更していくとして、課題3に繋がるとあるが、もう少し説明があるとありがたい。
- ・ 「課題」としている部分は「問題」ではないか。推進施策と書かれているところこそが課題だと思う。これを実現させるためにこういう施策をとっていくのかを問わないといけない。問題が起こっている理由に仮説を立てて、課題を抽出する。それに対して具体的な推進施策は何かと問うていくべきと思う。これは何となく問題と課題を書いているに過ぎない。それをどう実現していくのかというところを虫食い問題のようにしていかなければいけないと思う。ではどうするかと問うて考えることによって、各課が自分で考えて、施策を立てて、実現していくことに繋がるのかなと思う。
- ・ 「課題」と「推進施策」と「指標」が繋がっていない。例えば文化施設の利用者数、100年会館では市民文化ではなく都市文化振興でやっているかもしれない。5つの課題と施策をしっかりと浸透させて、自分の担当している事業はどの課題を解決するためにやっているのかということが浸透すれば、それぞれの施策について担当者からの評価が聞ける。自分がやったことがあらゆる人に対する文化に触れる機会の提供になっている、なぜならこれだけの人が来た、こういう意見があった、そうなれば施策評価が出来る。今後施策・課題についての浸透がまずあって、それに事業がぶら下がっていく、この事業がこの施策のためにやっているのだと意識が浸透すれば、その事業の担当者が実感として、施策に対して貢献しているかどうかの自己評価が出来る。それを本委員会が集めて、もっとこういうことがあったんじゃないかと問いかけていけば評価が深まっていくと思う。
- ・ 資料3-1の9頁のところで、赤と青の枠でロジックツリーが簡単に書かれているが、ここを深めなければならない。自分達のやっている事業はこの施策か、いやこっちの施策かというのがあり、組み立てていって、それぞれの事業ごとには活動指標でいいと思う。それが集まって課題となった時には実感として語るものがあると施策評価になってくる。資料3-2の指標をもし計画に盛り込むのであれば、これはアウト・プット指標であると明確に書くべき。アウト・プット指標でこのコロナ禍で自分の首を絞めることにならないか気になるが、事業のアウト・プット指標も確実にあって、それが即施策評価ではなく、事業がいくつか集まって実感として出来上がっているのがロジックツリーになっている、そのところを深めていければ、計画で施策評価できるのか、実感として聞けるのではないか。
- ・ 「文化施設の利用者数」や「ホールでの鑑賞事業」はグロスで勝負しているようで、ポピュリズムを促進していることにならないか。例えば障がい者を対象とか、母子父子家庭の子ども達に来てもらう仕事をしているなど、きちっと測定しなくてはならない。それをのべ利用者数に合わせたらポピュリズムで仕事をした方がいいとなる。「学校園や福祉施設へのアウトリーチ事業」は良い。セグメントされたアウト・プットだから。アウト・カムに近い。整理をした方がいい。なら100年会館や都市文化型の施設は公益事業をやっているはずなので、その数字を単純にポピュラーなものと比較してはいけない。



(会長から)

- ・ 大変重要な議論が多くあった。PDCAの話、施策と効果の環境をきちっと繋がなくてはならないということ、アウト・カムに近いアウト・プットに。社会的少数者・弱者の事業供給を今こそきちっと書かなければいけない、そういうところの書き込みを厚くした方が良い。観る文化とする文化を整理した方が良い、市民文化の中に丸め込む話ではない。どこでも観賞型事業が多いが、する文化(の事業)はほとんどない、そこにもっと注目した方が良い。市民文化と都市文化の関係は切断されているものではなく、例えば100年会館の中でも市民文化型の事業をやっていることもあるだろうし、音声館のような小さい施設でも、市民文化施設ではなく都市文化施設だとの解釈も出来る。施設の大小を言っているのではない。発信力とか個性を言っているのだと。それは循環関係にある。市民文化政策の厚みが出来て、やがてポテンシャルなエネルギーが高まって爆発することによって都市文化が生まれていく。そういうことを描いた方がストーリーとしては楽しくなるのではないかと。
- 個人的に一つだけ。そのストーリーの中に、古いものと最先端のものが激突する場面を作って欲しい。対比、コントラストを明確にする。その言葉をどこかに入れられないか。新旧が常に出会う場が設計されて欲しいと思う。

以上、議題終了